



35 年の歩み

— 特別対談 — 山下泰裕 日本オリンピック委員会 会長

参議院議員

中曾根弘文



参議院議員 中曾根弘文事務所

国会事務所

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1224号室
TEL:03-3581-3111(代) FAX:03-3592-2424

前橋事務所

〒371-0801 群馬県前橋市文京町1-1-14
TEL:027-221-1133 FAX:027-221-4111



初当選御礼挨拶(1986年、中央は長男・康隆4歳)



レーガン大統領を日の出山荘で迎える(1983年、日米首脳会談)



ブッシュ副大統領(後に大統領に就任)と会談



中曽根康弘自民党総裁から参議院選挙の公認証を受ける(1985年)



サッチャー元首相(英国)と



ゴルバチョフ元大統領夫妻(ソ連)を日の出山荘で迎える

中曽根弘文さんの35年に亘る議員活動の一端を写真とともに振り返ります

Interview

初当選から35年となりますが、当時の思い出は？

中曽根 大学卒業後、旭化成工業(株)(現旭化成)に入社し、15年間、主に石油化学関係の仕事に携わってきました。父・康弘の首相就任に伴い、昭和58年に旭化成を退社し父の秘書になりました。「国の最高責任者として父親が最高の仕事ができるよう自分に出来ることがあれば力を尽くそう」という思いからでした。総理秘書として政治の中枢で働き、サミットを始め各国首脳との数々の外交の現場に立ち会えたことは貴重な経験で、世界の要人たちとも家族ぐるみ

も家族ぐるみの付き合いが出来ました。

その後、昭和61年の衆参ダブル選挙に群馬県選挙区で立候補し当選、国会議員としてのスタートを切りました。



中曽根 弘文 (なかそね ひろふみ)

参議院議員 群馬県選挙区選出 当選6回
1945年(昭和20年)11月28日生まれ 群馬県高崎市出身

- 1968年 慶應義塾大学卒業、旭化成工業(株)勤務(1968～1983)
- 1983年 内閣総理大臣秘書、自民党総裁秘書(兼務)
- 1986年 参議院議員初当選(現在まで連続6回当選)
- 1990年 通商産業政務次官
- 1993年 参議院 商工委員会 委員長
- 1997年 参議院 議院運営委員会 委員長
- 1998年 参議院 国鉄債務処理及び国有林野事業改革特別委員会 委員長
- 1999年 文部大臣、科学技術庁長官、原子力委員会委員長(小渕内閣)
- 2000年 文部大臣、科学技術庁長官、原子力委員会委員長(森内閣)
内閣総理大臣補佐官(教育問題担当)
- 2001年 参議院 政治倫理審査会 会長
- 2002年 裁判官弾劾裁判所 裁判長
- 2004年 参議院 予算委員会 委員長、自民党 中心市街地再活性化調査会 会長
- 2006年 参議院 教育基本法に関する特別委員会 委員長
- 2007年 参議院 懲罰委員会 委員長、自民党 伝統文化調査会 会長
- 2008年 外務大臣(麻生内閣)
- 2009年 自由民主党群馬県支部連合会 会長
- 2010年 参議院自由民主党議員会長
- 2013年 自由民主党 党紀委員会 委員長
- 2014年 参議院 北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会 委員長
自由民主党 青少年健全育成推進調査会 会長(現在)
自由民主党 日本の名誉と信頼を回復するための特命委員会 委員長
- 2015年 自由民主党 歴史を学び未来を考える本部 事務総長
- 2016年 参議院 情報監視審査会 会長
- 2017年 天皇皇后両陛下ベトナム国御訪問 首席随員
- 2018年 メキシコ合衆国大統領就任式典 日本政府特派大使

《主な議員連盟》

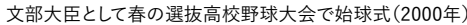
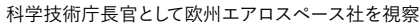
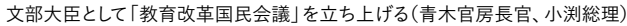
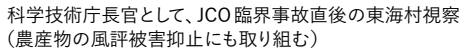
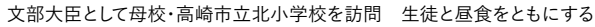
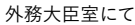
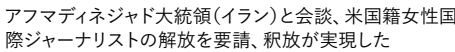
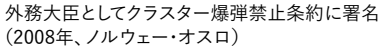
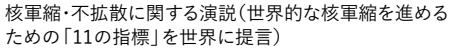
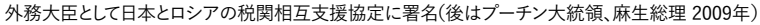
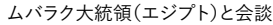
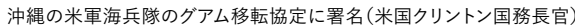
日米国会議員連盟(会長)、日本メキシコ友好議員連盟(会長)、日本リトアニア友好議員連盟(会長)、日本ラトビア友好議員連盟(会長)、日本モロッコ友好議員連盟(会長)、参議院日本ポーランド友好議員連盟(会長)、参議院ASEAN議員交流推進議員連盟(会長)、日韓議員連盟(顧問)、アジア太平洋国会議員連盟(会長代行)、スポーツ議員連盟(副会長)、障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟(会長)、ゴルフ振興議員連盟(会長代行)、短期大学振興議員連盟(会長)、幼児教育議員連盟(会長)、こどもの未来を考える議員連盟(会長)、ボーイスカウト振興国会議員連盟(副会長)、中小印刷産業振興議員連盟(会長)、珠算教育振興議員連盟(会長)、歌舞伎振興議員連盟(会長)、パン産業振興議員連盟(会長)、花火文化芸術振興議員連盟(会長)、働く犬を支援する議員連盟(会長)、全国温泉振興議員連盟(会長)、しいたけ等特用林産振興議員連盟(会長)、神道政治連盟国会議員懇談会(幹事長)、日本会議国会議員懇談会(会長代行)、創生「日本」(会長代行)

ほか多数

《その他》

中曽根康弘世界平和研究所(副会長)、日韓協力委員会(副会長 兼 理事長代行)、日本オリンピック委員会(評議員)、日本陸上競技連盟(評議員会議長)、日本ホッケー協会(会長)、日本武道館(理事)、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(顧問)、日本高等学校・中学校ゴルフ連盟(会長)、日本華道連盟(名誉会長)、茶道裏千家淡交会(関東第二副地区長)、日本甲冑武具研究保存協会(名誉会長)、関東陸上競技協会(名誉会長)、群馬陸上競技協会(名誉会長)、群馬県ホッケー協会(会長)、群馬県なぎなた連盟(会長)、群馬県銃剣道連盟(会長)、群馬県ゴルフ連盟(会長)、群馬県合気道連盟(特別顧問)

ほか多数



政府や党、国会でも要職を歴任してこられました。文部大臣や外務大臣として数々の重要案件を手掛けてこられました。特に印象深いことは？

名を行うなど、不思議な縁を感じ、良
好な日米関係を築くことができました。
その他、クラスター爆弾禁止条約への
署名、世界的な核軍縮を進めるための
具体的な「11の指標」を明示した「核
軍縮演説」、イランで拘束され裁判にか
けられていた米国の国際的女性ジャーナ
リストの解放の実現、北朝鮮の核実験に
対する国連決議の採択のための活動な
どを行いました。

外務大臣として印象深いことは？

中曽根 麻生内閣で外務大臣に就任しましたが、丁度リーマンショックの時で、米国等と協力して「G 20 サミット」に於いて、世界経済の回復に日本として主導的役割を果たしました。オバマ政権となり、米国の国務長官にヒラリー・クリントン氏が就きました。クリントン大統領夫妻とは、同大統領がアーカンソー州知事の時に夕食を共にしたことがあります。数年後、夫のビル・クリントン氏が大統領に就任し、またヒラリー氏が後にオバマ大統領の下で国務長官となり、私のカウンターパートとして一緒に沖縄の米軍海兵隊のグアム移転の協定書に署名を行うなど、不思議な縁を感じ、良好な日米関係を築くことができました。

その他、クラスター爆弾禁止条約への署名、世界的な核軍縮を進めるための具体的な「11の指標」を明示した「核軍縮演説」、イランで拘束され裁判にかけられていた米国の国際的女性ジャーナリストの解放の実現、北朝鮮の核実験に対する国連決議の採択のための活動などを行いました。

事故再発防止に取り組みました。

更にH-2ロケットの打ち上げ失敗を受け、NASDA（宇宙開発事業団）全体の抜本改革を行い、宇宙開発の立て直しに取り組んだことが、現在のJAXA（宇宙航空研究開発機構）の躍進へつながったものと思っています。また、この打ち上げ失敗を機に、官民のヒヤリ・ハット事例のデータベース化を提唱し、後に「失敗学」という学問の分野となりました。

中曾根 文部大臣としては、何よりも就任の記者会見で、初当選以来目指していた教育基本法の改正に取り組むことを表明するとともに、小渕総理と「教育改革国民会議」を立ち上げ、最終提言として「教育を変える17の提案」（2000年）を取りまとめました。この提言がその後の教育改革の柱となっています。教育基本法の改正は、後に私が参議院の「教育基本法に関する特別委員会」委員長として仕上げることができました。



米国インディアナ州知事時代のベンス氏(前 副大統領)が来訪。東京の議員会館で会談



米国ベンス副大統領とメキシコ議会議場で



アーカンソー州知事時代のクリントン夫妻と会食(1990年7月)



キャロライン・ケネディ駐日米国大使と



日米議員連盟会長として米国オバマ政権のバイデン副大統領と(東京、米国大使館にて)



「子は国の宝」幼児教育議員連盟会長として
青少年健全育成に取り組む



タイ・カンボジア国境地帯での地雷除去活動を
支援(右から2人目)



李登輝・台湾総統と



緒方貞子氏とともにベニャ・ニエト・メキシコ大統領(左)より
直々に勲章を授与される



ロベス・オブラドール大統領(メキシコ)と
就任式典に日本政府特派大使として出席



コモロフスキ大統領(ポーランド、右)より直々に勲章を授与される



全斗煥・元韓国大統領夫妻の自宅で



旧知の韓国李洛淵(イ・ナギョン)
国務総理(首相)と



北京で歌舞伎と京劇の同日交互上演を実現
歌舞伎振興議員連盟会長として唐家璇・中国元外交部長・副首相、尾上菊之助さんと

大使を交えて懇談しています。
また、ベンス前副大統領は、同氏が
インディアナ州知事の時に私の国会事
務所を訪ねてくれました。副大統領
に就任されてからもメキシコや東京で
お会いするなど交流を続けています。
日米国会議員連盟会長として、コロ
ナが収束したら訪米し、お二方とも会
談したいと考えています。

海外との友好議員連盟については、
日米、日本・メキシコ、参議院日本・ポー
ランド、参議院日本・ASEANなど
数々の友好議員連盟の会長を始めとし
て、多くの国との友好議員連盟で活動
をしています。
米国のバイデン大統領とは、同氏が
オバマ政権の副大統領の時に、東京の
米国大使館でキャロライン・ケネディ

議員連盟ではありませんが自民党の
「青少年健全育成推進調査会」でも長
く会長を務め、現在、「青少年健全育
成基本法」や「家庭教育支援法」の成
立に向けて活動しています。
「幼児教育議員連盟」では、約10年
前から「幼児教育の無償化」に取り組
んできましたが、令和元年10月に無償
化が実現しました。現在、続けて「幼
児教育振興法」の成立に向けて活動し
ています。

Interview

たくさんの議員連盟にも
所属していますね？

中曽根 約80の議員連盟に所属し、会
長などを務めています。教育の分野で
言えば、例えば、私が会長を務めてい
る「幼児教育議員連盟」では、約10年
前から「幼児教育の無償化」に取り組
んできましたが、令和元年10月に無償
化が実現しました。現在、続けて「幼
児教育振興法」の成立に向けて活動し
ています。



通商産業政務次官に就任(1990年)



国会で代表質問に立つ



参議院商工委員長に就任(1993年)



国鉄債務処理及び国有林野事業改革特別委員会 委員長(1998年)



議院運営委員長として委員会の開会を宣言(1997年)

Interview

国会での委員会活動などは？

中曽根 憲法審査会や外交防衛委員会に所属しています。

憲法審査会は、憲法の課題を議論し、憲法改正原案が提出された場合には、審査して採決します。しかし、現実には、審査会設置以来、改正についての具体的な審議はほとんど行われない状態でしたが、本年6月に改正「国民投票法」が成立し、改正への第一歩を踏み出しました。改正に賛成でも反対でも、まず各党が具体的提案を行い、国民の前で堂々と議論を行うべきです。

また昨年10月までの4年間、情報監視審査会会長を務めました。政府各機関が持っている安全保障などに関する各種機密情報(特定秘密)が適正に指定や解除が行われているかを審査するものですが、この法律によって特定秘密の外部への漏洩に厳しい罰則が設けられ、情報管理が厳格化されたことで、外国の政府機関や海外情報機関からの我が国への情報提供もスムーズに行われるようになりました。



東京オリンピック・パラリンピックの招致決定の瞬間(ブエノスアイレスのIOC総会にて)



前橋市で開催された世界室内陸上競技大会でカール・ルイス選手と(1999年、群馬陸上競技協会会長として共同記者会見)



ウサイン・ボルト、タイソン・ゲイ選手らと日本陸上競技連盟副会長として 世界陸上競技選手権大会で(2007年、大阪)



日本武道館理事として、新年鏡開き式(武道始め)で大將軍役を務める



車椅子を体験



日本ホッケー協会会長として、さくらジャパン(女子日本代表)とともに

Interview

オリンピック・パラリンピックが開催されましたが？

中曽根 日本オリンピック委員会の評議員や東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の顧問を務めています。2013年にブエノスアイレスで開催されたIOC総会にも招致団の一員として参加し、東京開催のためのロビー活動を行いました。

東京オリンピック・パラリンピックはコロナ禍の中での開催となり、国民の皆様や参加する競技者の皆様にも大きな制約を伴う大会となりましたが、競技者にとっては生涯の全てを掛けて臨む大会でもあり、無観客となった形でも開催でき成功したことは良かったと思います。

本来であればオリンピックはスポーツと文化の祭典であり、オリンピック憲章に定められた文化プログラムも数多く実施される予定でした。縮小した形での開催となり日本のソフトパワの発信の機会が少なかったことは残念でした。

私は「障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟」の会長も務めています。東京パラリンピックを契機として、障がい者スポーツに対する国民の関心と理解が深まり、全国どこでも障がいを持っている人誰でもがスポーツを楽しめる社会にしたいと思っています。



ヴィルト・バンカ スポーツ大臣(ポーランド、現 世界アンチ・ドーピング機関 会長)と会談

Interview

これからの課題は何ですか？

中曽根 喫緊かつ重要な課題はやはり新型コロナ対策と経済の回復です。群馬県内でも医療関係者を始めエッセンシャルワーカーの方々には大変なご尽力を頂いており敬意と感謝を表します。現在の対応と同時に、今後はコロナ後に向けた新たな社会体制整備作りを進めなくてはなりません。県内においても飲食や観光はもとより、様々な分野で甚大な影響が出ました。経済の回復を如何に図るかは大きな課題です。

また、火山の噴火や集中豪雨等による大規模災害が度々、全国各地で発生しています。災害が発生すると多くの人が亡くなり農業や商工業にも大きな損害が生じます。災害を想定したインフラ整備や法整備を行い、国土強靱化を図り防災・減災対策を着実に進めていかなくてはなりません。

国外に目を向ければ、中国の軍事力拡大や北朝鮮の核開発や高性能弾道ミサイルの開発により北東アジア地域の軍事的脅威は益々高まっています。最先端の防衛力整備や、日本の安全保障の根幹となる日米同盟の強化はますます重要になっています。政治の最も重要な責務は「国民の生命と領土を守る」ことです。

一方で、ご譲位により令和の時代が始まりましたが、国民の間にも皇室制度や日本の伝統に対する関心が大いに高まりました。世界で唯一の皇室の伝統を如何にして守り後世に継承していくかは最も重要な課題であり、国民的理解を一層深めるための活動に力を入れていきたいと考えています。「日本の心」を大切に、良き伝統を守り文化を発展させ、よい国を子や孫の世代に引き渡していけるよう、これからも全力で取り組んでまいります。



1984年10月9日 国民栄誉賞授賞式にて（写真提供 産経新聞）

スポーツから多くを学ぶ
中曽根 お忙しい中でお時間をいただき、ありがとうございます。私は高校、大学と7年間、体育会でホッケーをやってきた経験があり、スポーツを通じて集団の中でお互いが助け合いながら、チームとして良い成績を得るために協力する大切さを学びました。もちろん、日々の練習でつらいときもありますが、

それを乗り越えたという自信から、年はとりましたが、体力的にも同世代の人には「負けないぞ」という気持ちを持っています。スポーツは人間の肉体的・精神的双方の成長においても、とても大切だと思っています。国会議員になってからは、1999年に小渕内閣でスポーツも所管する文部大臣に任命され、その後もスポーツ関係の発展に少しでも役立てばとの思いから、多くの競技団体や組織で役職を引き受けてきました。かつては、パラリンピックなどの障がい者スポーツは、厚生労働省の所管でしたが、2015年秋にスポーツ庁が発足し、オリンピックと一体となって強化、振興が図られるようになり良かったと思います。

山下 私は中曽根さんのお父様が総理大臣だったときに、国民栄誉賞をいただきました。当時の記憶は今でも鮮明にあります。まずは、いきなり電話がかかってきたんですよ。いまの時代であれば内々で打診があったり、報道が先に出たりするんでしょうけども。あのころの日本国内ではプロスポーツに比べて、アマチュア競技はまだまだ十分な評価を得ていませんでした。そういう中で、中曽根総理から賞をいただけるというときは、「アマチュアに

も光を当ててくださるのか」と本当にびっくりしました。ですから、「一柔道家としてではなく、アマチュアスポーツの代表として賞を頂けることに感謝します」とコメントをさせていただきました。私自身はオリンピックで金メダルを取るという、小さいときからの夢を実現できましたが、振り返ってみると、私自身の努力はもちろんですが、多くの人の支えがあつてこそだという気持ちがありました。ですから、これからの人生で恩を返していくことが自分の務めだというのが自然な流れになり、JOC会長を務める現在までスポーツ界に身を置いてきたわけです。国民栄誉賞もその動機付けにつながっていますね。

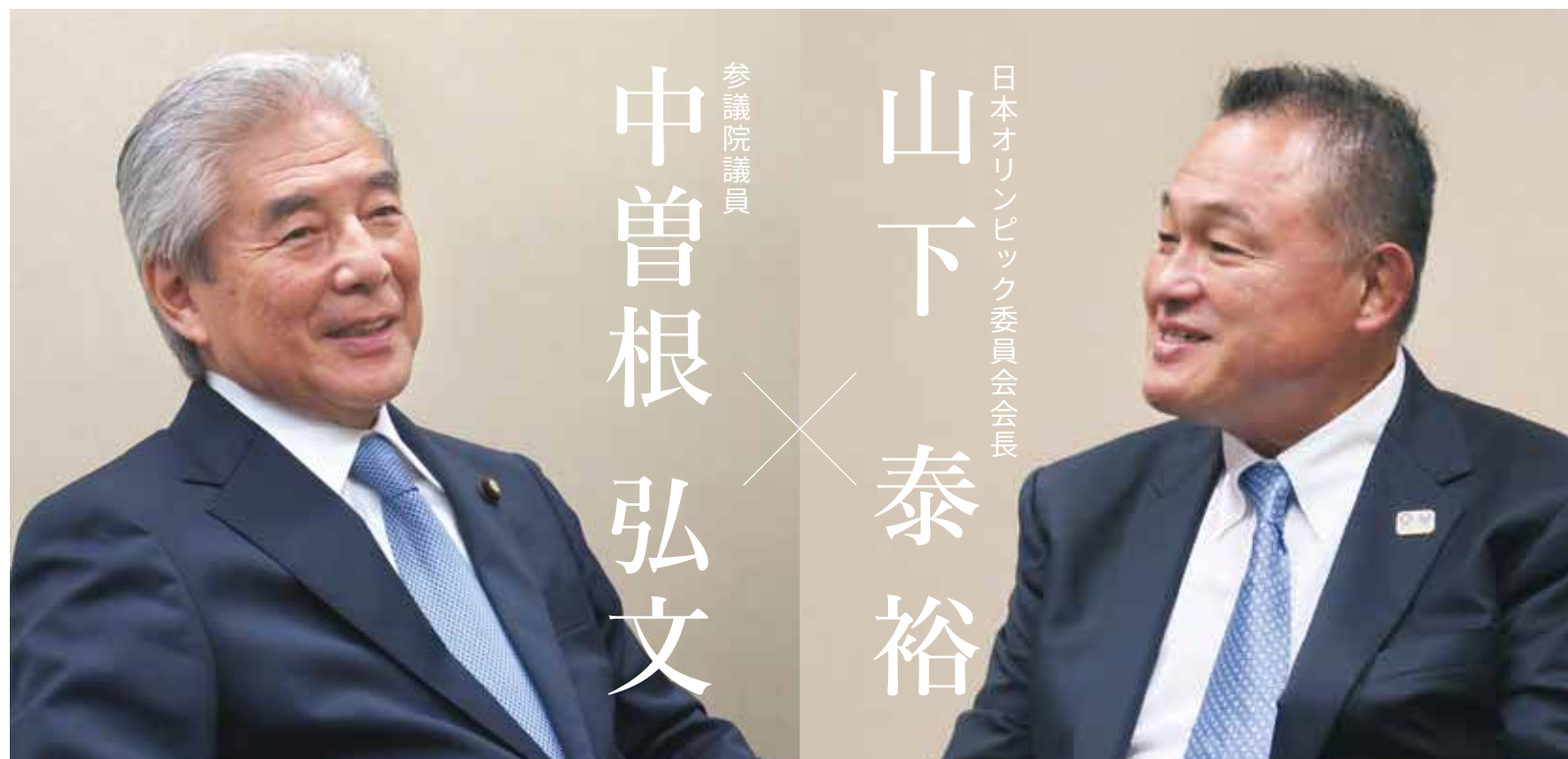
中曽根 私が学生時代に打ち込んだホッケーはチーム競技なので、みんなの力を合わせた総合力で勝負します。誰かが調子が悪くても、他の誰かがカバーすることで結果につながることができる。これは団体競技の素晴らしきでもあるのですが、柔道など個人競技はそうはいかないですよ。私は日本陸上競技連盟の評議員会議長でもあるのですが、その陸上においてもリレーや駅伝などを除けば、自分一人の力で頑張らないといけません。強い精神力

を維持して、日々の練習に打ち込むのは大変だなと思っています。

山下 確かにチームブレは仲間と協力し、メンバー一丸となって戦うことができますよね。ただ、我々のような個人競技においても、たとえば柔道の稽古では、練習パートナーなど色んな人のサポートを受けます。ですから、私はどんな競技でも自分一人の力で成し遂げることはできないと思っています。もう一つ言えば、柔道は戦う相手を尊敬する気持ちを重んじています。海外で柔道の話をするときには、2つの大事なことを必ず伝えます。一つは「礼」。これは頭を下げるお詫びで



大学ホッケー部時代（写真右：本人）



参議院議員

中曽根 弘文

日本オリンピック委員会会長

山下 泰裕

中曽根 弘文（なかそね ひろふみ）

昭和20年11月28日生まれ
 慶應義塾大学卒業

昭和61年 参議院議員に初当選（群馬県選挙区） 当選6回
 文部大臣、科学技術庁長官（小渕内閣、森内閣）
 内閣総理大臣補佐官（教育問題担当）
 外務大臣（麻生内閣）
 参議院自由民主党議員会長 などを歴任

〈主なスポーツ関連の役職〉

日本陸上競技連盟	評議員会議長、日本ホッケー協会	会長
	日本高等学校・中学校ゴルフ連盟	会長
	障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟	会長
	スポーツ議員連盟	顧問
	日本オリンピック委員会	評議員
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会		顧問
	日本武道館	理事
関東陸上競技協会	名誉会長、群馬陸上競技協会	名誉会長
	群馬県ホッケー協会	会長、群馬県なぎなた連盟
	群馬県銃剣道連盟	会長、群馬県ゴルフ連盟
	群馬県合気道連盟	特別顧問
		など

山下 泰裕（やました やすひろ）

昭和32年6月1日生まれ
 東海大学大学院体育学研究科修了

昭和52年～60年 全日本選手権優勝（9年連続）
 昭和54年・56年・58年 世界選手権+95kg優勝（3回連続）
 昭和56年 世界選手権無差別級優勝
 昭和52年～57年 全日本体重別選手権+95kg優勝
 昭和59年 ロスアンジェルスオリンピック無差別級優勝
 昭和60年 203連勝にて現役選手を引退

昭和59年 国民栄誉賞受賞
 平成19年 紫綬褒章受章
 平成23年 外務大臣表彰受章
 他に、熊本県民栄誉賞・日本スポーツ賞（2回）・朝日体育賞（4回）・文部省スポーツ功労賞（6回）等を受賞

東海大学 副学長
 全日本柔道連盟 会長
 日本オリンピック委員会 会長
 国際オリンピック委員会 委員

日本オリンピック委員会（JOC）会長を務める柔道家の山下泰裕さんは現役時代の1984年、ロサンゼルスオリンピック無差別級で足のけがを乗り越えて金メダルを獲得し、私の父、康弘が内閣総理大臣だった同年10月に国民栄誉賞を受賞されました。現役引退後もスポーツ界で長きにわたって活躍され、現在はJOC会長をはじめ、国際柔道連盟理事、全日本柔道連盟会長なども務めます。

私自身も高校、大学と体育会のホッケー部で仲間たちと汗を流し、政治家になってからも障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟や日本ホッケー協会などで会長を務めています。

今回は、目標に向かって努力する大切さ、仲間との絆、支えてくれる周囲への感謝、さらには国際交流など、スポーツが持つ力や可能性、人格形成について、山下さんと大いに語り合う対談が実現しました。さらには来年夏に控える東京オリンピック・パラリンピック、新型コロナウイルス禍でのスポーツの果たす役割など多岐にわたるテーマについても、山下さんの思いの丈を伺いました。

（令和2年10月8日、
 東京・参議院議員会館にて対談）

はなく、日本式の相手への尊敬の念を表している、と。柔道という激しい競技で相手への敬意を失えば、ストリートファイティングと同じになってしまう。それからもう一つ。頂点に立つには、色々な方々のサポートが必要であり、そのことに感謝の気持ちを持ちなさいということです。ライバルに對しても同じですよ。2018年平昌五輪のスピードスケート女子500メートルで、日本の小平奈緒選手が金メダルを獲得しました。最大のライバルは韓国の李相花（イ・サンファ）選手でした。先に滑った小平さんがオリンピック新記録を樹立したことで、会場にいた日本からの応援団はとても盛り上がりました。しかし、小平さんは直後、客席に向かって自分の口元を指を押し当てました。「静かにしてね」という合図でした。次に滑る李相花選手

の集中力が乱れないようにという気遣いでした。ともに高め合ってきた存在に對する尊敬の念、感謝の気持ちがあつたからこそ、こうした行動が自然とできたのでしょう。これこそがスポーツの素晴らしさです。日本国内でも例えば男子100メートルで桐生祥秀選手が10秒を切ると、「よし、俺だって」と次に続く選手が出てくる。

する選手がたくさんいますね。オリンピック競技でも、世界を飛び回っている選手がいます。私自身、スポーツを通じた国際交流は非常に重要だと考えています。ただ、日本の若者が色々なデータから、だんだん内向きになっていて、なかなかチャレンジしないというところが問題になっていようです。コロナ禍以前の話でも、トップの大学ですら海外留学の枠が余っていると聞きます。日本のような島国では普段から海外の人と接する機会が少ないですから、意識して海外に目を向け、出ていかないといけないと考えています。その手段の一つにスポーツは挙げられるのではないのでしょうか。実際、世界で活躍する若いアスリートは、我々の時代よりも、国際的な感覚にたけています。彼らのキャリアをぜひ国際オリンピック委員会（IOC）や国際競技団体などで生かし、活躍できるように、環境を作っていくことがIOCの大きな役割だとも考えています。日本が国際社会の中でスポーツ界でも存在価値を示し、発言力を高めていくには意識して世界に送り出していくことが必要です。この点においては中国や韓国、あるいはロシア、旧ソ連諸国などに比べて日本は弱かった。若い世代に外

ライバルの存在が自分を引き上げてくれます。

中曽根 スポーツに共通して言えることとして、最後まであきらめないということもありますね。くじけそうになっても頑張る精神力が培われます。私は日本ホッケー協会の会長をしています。2018年にジャカルタで開催されたアジア大会は男女とも金メダルを獲得できました。山下さんも応援にきていただいた男子決勝は試合終了間際の残り13秒で同点に追いつき、最後はサッカークのPKのようなシュートアウト戦で勝利することができました。あの瞬間は、本当に最後まであきらめちゃいけないんだということを実感しました。

山下 最後まであきらめない、力を合わせる、戦う相手に對する尊敬の気持ち。これをスポーツで終わらせてはいけないと思っています。人生に生かして初めて価値がある、と。ルールを守る、挨拶ができる、我慢する、周囲に感謝する、明確な目標を持つ、人一倍努力する。スポーツで勝つことはもちろん大事ですが、スポーツで培ったことを社会に生かせば、もっとフェアな社会、思いやりにあふれた社会になっていくと思います。なぜ、私が

国に出るチャンスを作っていきたい。2021年の東京オリンピック・パラリンピックが終わったら至急、取り組まないといけない課題だと思っています。

中曽根 外務大臣を務めていたときに実感したことがあります。外交という、外務省を中心に、外交官が中心にという印象があるでしょうが、青年の交流をはじめ、若いアスリートが海外に行くことは実はスポーツを通じて外交の役割を担ってくれているようなものだということです。その人を通じて、日本のこと、日本人や日本人の精神を外国の人たちは理解するわけです。草の根レベルで深まる交流が国際親善を深める大きな役割を果たしてくれます。これは政治の世界ではできません。だから、スポーツを通じた交流は、国家にとっても非常にありがたいことです。山下さんの思いを聞き、アスリート出身の日本人が国際組織の中でリードしていけるような道を切り開くことの重要性を再認識いたしました。

山下 ありがとうございます。私はスポーツの国際交流は異文化交流とイコールだと思っています。クーベルタンの男爵が提唱した近代オリンピックは、たくさんの国の選手が集まります

こんなことを言うのか。それは、私自身がどうしようもない子供だったからなのです（笑）。体がでかくて暴れん坊。「私がいるから恐くて学校にいけない」という同級生がいると聞いた両親が、このままでは将来、人様から後ろ指をさされるような人間になってしまうと案じ、厳しく指導をしてもらえば、少しは人に迷惑をかけないように成長してくれるのではないかと柔道を習わせたのです。小学校4年のときでした。私はすぐに柔道が大好きになりました。道場の先生の言葉を鮮明に覚えています。「柔道と普段の生活はつながっているんだよ」ということでした。「道場でだけ挨拶ができてダメ。親や学校の先生、近所の人、友人みんなに同じようにしなさい」と言われました。柔道、スポーツとの出会いが人生を変えてくれたのです。

中曽根 私は日本高等学校・中学校ゴルフ連盟の会長を務めています。連盟が主催する大会から石川遼選手や渋谷日向子選手、引退された宮里藍さんらがプロへと巣立っていきました。私自身も口酸っぱく言っていることは「技術の向上はもちろん大事だけど、技術、スコアだけじゃない。一緒にプレーする人への思いやり、ルール

が、文化も宗教も人種も（国家の）体制も違う。そんな中で同じルールのスポーツで競い合いながら交流することを通じて、他の人との違いを知り、相互理解を深めていく。こうした活動を広げていくことが世界の平和につながるのではないか。これこそが近代オリンピックの一番大きな意義だと思います。もちろん、スポーツを通じた国際交流はトップアスリートだけではありません。外国で友人を作ろうと思ったら、自分がやってきた競技の現地のクラブチームなどに入ると良いと言えます。同じスポーツをやっていたということだけで分かり合えたりします。

2021年東京オリンピック・パラリンピックを一体で成功を

中曽根 私自身も「ホッケーをやっていた」ということを外国の人との会話でしたとき、「あなたもやっていたのですか。僕もやっていました」と一気に距離が縮まって、会話が弾んだ経験があります。共通のスポーツ経験があると、人種や国境の壁を越えて、親近感がわいて、昔からの知り合いのようになりますよね。そういう意味でも、もちろんコロナ禍においては日本や世界の人たちの命が最優先ですが、自国

やエチケットを守ること。それが大事だ」ということなのです。ゴルフは自分で審判をするスポーツです。空振りしたら、人が見ていなくても一打を加える。OBラインを少しでも越えたらきちんとして申告をしないとけません。ジュニア層においては教育的観点から見ても、自己申告でルールに厳しくプレーするということは非常に重要です。社会に出ても立派な人間になってほしい。そういう気持ちで会長を引き受けたのです。

国際交流を深め、海外で活躍できる若い世代の育成が急務

山下 ゴルフでは国内ツアーはもちろん、実力をつけて海外ツアーに挑戦



開催の来年夏の東京オリンピック・パラリンピックは何としても開催にこぎつけたいという願いを持っています。山下さんにはIOC会長のお立場からぜひ、開催に向けた力強いメッセージをいただきたい。

山下 IOC会長でIOC委員でもあり、また大会組織委員会の副会長でもある立場から言えば、IOCも日本政府も組織委員会も東京都も、そしてIOCも、安心・安全な形で来年の大会を開催したいと考えています。形は従来の大会とは違っても、何とか開催できると、そう思っています。コロナ禍の状況になる前は「大会成功に何が必要か」と色んなことが議論されてきました。しかし、この状況の中では、世



車椅子を体験

トの思いを実現することだと、理解を
 いただきたいのです。厳しい経済状況
 の中でできる限り開催経費もカットし
 なければなりません。様々な制限がつ
 き、皆さんがイメージしていた大会と
 は違うものになるかもしれません。が、
 日本人の英知を結集すれば、必ず開催
 できるものと思っています。

中曽根 そうですね。私の思いとして
 は、オリンピックだけでなく、ぜひパ
 ラリンピックも一体となって大成功と
 言える東京大会にしたいと考えていま
 す。私がずっと会長をしている障がい
 者スポーツ・パラリンピック議連に
 は、3つのワーキンググループがあり
 ます。一つはパラリンピック、もう
 一つは知的障がい者を対象としたスベ
 シャルオリンピックス、それから聴覚
 障がい者のためのデフリンピックで
 す。東京大会の招致が決まり、障がい
 者スポーツへの支援は大きくなり、ス
 ポンサー企業の協力も増えています。
 でも、まだまだ十分ではありません。
 来年の大会を契機に国民の皆さんの障
 がい者スポーツに対する意識をさらに
 高めてもらうためにも、みんなで応援
 することが大事だと思っています。ま
 た世界中からパラリンピアンがやっ
 てきます。テレビや会場で観戦してもら

い、障がいがあるお子さんたちに「僕
 もやりたい」と思うきっかけになっ
 てほしいとも願っています。特に地方に
 住んでいると、競技器具を買うに
 していいかわからないという状況が
 あります。日本のどこで暮らしてい
 ても、障がいがあってもスポーツに参
 加できる環境作りにつなげることが、東
 京大会のレガシーとして非常に重要だ
 と考えています。

山下 中曽根さんと同じ考えです。私
 がJOC会長になっ
 たとき、同じような
 発言をしました。と
 ころが目上の委員か
 ら「会長の思いはわ
 かります。でも、J
 OCは国際競技力の
 向上を目指すことが
 役割ですよ」と指摘
 されました。思わず
 言い返しましたよ。
 「クーベルタン男爵
 それから大日本体育
 協会(現・日本スポー
 ツ協会)を立ち上げ
 て『日本の体育の
 父』と呼ばれた嘉納



障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟会長として選手団を激励(左奥は野田聖子会長代行、右奥は橋本聖子会長代理)

コロナ禍におけるスポーツ界

山下 そのためにも、まずは現在、新
 型コロナウイルスとどう向き合うか。
 実は海外の友人からずっと言われてい
 ることがあります。「山下、わかって
 いるか。自国開催の大会が盛り上がる



には、日本の選手の活躍が不可欠だ
 ぞ」ということです。そのための強化
 策として、来年の大会に向けて、日本
 の選手が海外遠征に出ていく、あるい
 は外国の選手を国際大会や合宿で受け
 入れていかなければなりません。国内
 でどれだけ一生懸命に練習をしたとし
 ても、本番で戦う相手は日本人ではあ

りません。すでに柔道でもヨーロッパ
 で国際大会が再開しています。もちろ
 ん、選手の安心・安全が第一ですから、
 会場の観客数に上限を設けるなど厳し
 い制限はつけなければなりません。が、
 今後、選手を海外に出したい、外国か
 ら受け入れたいというリクエストがス
 ポーツ界から出てくると思います。政
 府でも新型コロナウイルス感染症対策
 調整会議が立ち上がっていますが、ぜ
 ひともこうした面においても大会の成
 功に向けてご尽力いただきたいです。

中曽根 おっしゃる通りで自国の選手
 が活躍することはとても大事なことで
 す。2019年ラグビーワールドカッ
 プ(W杯)日本大会では、日本代表が大
 活躍してみんなが元氣や感動をもらい、
 試合を楽しみ、大いに盛り上がるこ
 とができました。そして、日本国内での
 ラグビーへの関心も高まりました。あ
 の大会が典型的な好例だと思います。

山下 私は中学2年のとき、「将来の
 夢」というテーマで作文を書きました。
 「私の夢は、大好きな柔道を一生懸命
 頑張つて、オリンピックに出場するこ
 とです。そして、メインボールに掲げ
 られた日の丸を仰ぎ見ながら、君が代
 を聴くことです」と記しました。普通
 なら100人いたら100人が「金メ

ダルを取りたい」と書きますよね。何
 が言いたいか。1964年の東京五輪
 がどれだけ大きな感動を与えたかとい
 うことです。熊本の下田舎の人間でさ
 えも、小学校のときにテレビで見た掲
 揚される日の丸、流れる君が代に感動
 し、自分の夢につながっていったとい
 うことです。ですから、何としても来
 年、東京でオリンピック・パラリンピッ
 クを開催して、国民の皆さんに夢や感
 動、希望、誇りを感じてもらえる、そ
 んな大会にできるようにしたいと考え
 ています。スポーツ界をずっと応援し
 てくれている中曽根さんをはじめ、議
 連の方々や多くの皆さんのお力もいた
 だきながら頑張つてまいります。

中曽根 たくさんの力強いお言葉をい
 ただき、またスポーツに対する情熱を
 語っていただき、ありがとうございま
 した。私自身もスポーツを通じた青少
 年の健全育成をはじめ、これからもス
 ポーツとの関わりを大切に活動してい
 きたいと思っています。そして、ぜひとも
 来年夏の東京オリンピック・パラリン
 ピックが成功し、国民の皆さんと感
 動を分かち合える日を迎えたいと思
 います。貴重なお話の数々、ありが
 とうございました。

聞き手…田中充(産経新聞運動部) 記者

クを応援して下さっている人たちが本
 物なのかどうかは、大会後にも継続
 して活動に取り組んで下さるかでわ
 かります。これは大会が終わったら
 はつきりしますよ、と色んなところ
 で話しています。さらに言えば、スポー
 ツ界が目指すのはスポーツ・フォー・
 オールですが、それだけじゃない。理
 想と言われるかもしれないが、共生社
 会の実現につなげることです。私の女
 房はあまりオリンピックに関心はな
 かったようですが、パラリンピックで
 義足の人が走る姿は幼かった子供にも
 見せていましたね。ですから、全国の
 お父さん、お母さんをお願いしたい
 のは、オリンピックも素晴らしいけ
 ど、パラリンピックもぜひ観戦してほ
 しいということです。違った観点で人
 間の可能性を感じることができるはず
 です。

中曽根 東京大会がオリンピックもパ
 ラリンピックも成功し、障がい者も含
 めた子供からお年寄りまで多くの方々
 がスポーツを楽しめる世界が広がって
 いく。そのために、障がい者スポーツ・
 パラリンピック議連としても、環境作
 りや法律面、政策面において、山下さ
 んがおっしゃったことをしっかりと受
 け止めて推進していきたいと思ひます。